

令和5年  
(2023)

# 東北信地方唯一の伝承地芝居 祢津東町歌舞伎公演

主催：祢津東町区  
祢津東町歌舞伎保存会  
後援：東御市  
東御市教育委員会  
東御市文化協会  
祢津地域づくりの会

演目

子ども歌舞伎

義経千本桜

祢津東町歌舞伎保存会

一谷嫩軍記

—三段目熊谷陣屋の場—

日時

四月二十九日(土)

小雨決行(昭和の日)

場所

祢津日吉神社境内

東町歌舞伎舞台

(文化十四年建築)



(熊谷陣屋)

## 日程

開場 午前10時 (入場無料)

◆三番叟 ..... 10:30

◆義経千本桜 ..... 11:00

(祢津小学校子ども歌舞伎クラブ)

◇開会式

◇バンド演奏 ~『懐かしの名曲を今ここに』~  
(東御市文化会館サンテラスバンド)

◆一谷嫩軍記三段目 ..... 13:00

—熊谷陣屋の場— (祢津東町歌舞伎保存会)

閉場 午後2時30分 (予定)

【交通案内】 上信越自動車道、東部湯の丸I.Cより5分

祢津東町歌舞伎保存会には寛延4年(1751)6月銘のある「踊大小入」という木箱が伝えられています。東町の回り舞台が建てられた文化14年(1817)よりも60有余年前の木箱です。寛延4年は祢津日吉神社の再建された年であり、おそらく、それを記念しての歌舞伎上演の時の諸道具入れの木箱であろうと考えられます。そうなりますと、約260年の伝統をもつ「祢津東町歌舞伎」となります。時代の流れの中にあつて、中断を余儀なくされたこともありましたが、「舞台仕込み帳」などによって、多くの演目が公演され、伝承されてきたことを伺い知ることができます。昭和に入り、記録に残されている上演のあゆみをまとめると次のとおりです。

昭和	令和
元年 御大典にて休止	10年 奥州安達原三段目「袖萩祭文」
2年 神霊矢口の渡「八郎物語」	11年 鎌倉三代記「絹川村閑居」
3年 神霊我対面「工藤館」	12年 加羅先代萩「名古屋公演」
4年 加羅先代萩	13年 加羅先代萩「御殿」
5年 鎌倉三代記	14年 絵本太功記十段目「尼ヶ崎閑居」
6年 神霊我対面	15年 奥州安達原三段目「袖萩祭文」
7年 ひらかな盛衰記	16年 絵本太功記十段目「尼ヶ崎閑居」
8年 奥州安達原三段目	17年 一谷嫩軍記「熊谷陣屋」
9年 鬼一法眼三略巻	11月 同演目上演
10年 絵本太功記	11月 同演目上演
11年 仮名手本忠臣蔵「祇園一力」	18年 鎌倉三代記「絹川村閑居」
12年 本朝廿四孝	19年 御所様堀川夜討「弁慶上使」
13年 一谷嫩軍記	20年 絵本太功記十段目「尼ヶ崎閑居」
14年 源平布引滝	21年 菅原伝授手習鑑「寺子屋」
15年 恋女房染分手編「重の井子別れ」	22年 加羅先代萩「御殿」
16年 土蜘蛛	23年 奥州安達原三段目「袖萩祭文」
17年 大江山	24年 一谷嫩軍記「熊谷陣屋」
18年 大久保彦左衛門	25年 忠臣蔵七段目「力茶屋」
19年 忠臣蔵「判官切腹」	九月 一谷嫩軍記「熊谷陣屋」
21年 鎌倉三代記「絹川村閑居」	10月 一谷嫩軍記「熊谷陣屋」
神霊矢口の渡「頓兵衛住家」	11月 一谷嫩軍記「熊谷陣屋」
神霊矢口の渡「八郎物語」	11月 一谷嫩軍記「熊谷陣屋」
22年 神霊矢口の渡「八郎物語」	11月 一谷嫩軍記「熊谷陣屋」
加羅先代萩「御殿」・「対決」・「刃傷」	11月 一谷嫩軍記「熊谷陣屋」
25年 近江源氏先陣館	27年 御所様堀川夜討「弁慶上使」
63年 加羅先代萩「床下」・「刃傷」	28年 絵本太功記十段目「尼ヶ崎閑居」
〔平成〕	29年 菅原伝授手習鑑「寺子屋」
2年 絵本太功記十段目「尼ヶ崎閑居」	30年 加羅先代萩「御殿」
3年 菅原伝授手習鑑「寺子屋」	31年 奥州安達原「環宮明御殿の場」
5年 一谷嫩軍記「熊谷陣屋」	〔令和〕
8年 加羅先代萩(女性による歌舞伎)	2年〜4年 休演
9年 加羅先代萩「上田公演」	

## ②【祢津小学校子ども歌舞伎クラブ】

祢津小学校子ども歌舞伎クラブは、平成10年に誕生しました。祢津地区の東町及び西宮区の伝統芸能である地芝居(歌舞伎)に興味のある子どもたちが集まってできたクラブです。この地域に根付く歌舞伎を通じた学校と地域の交流は、将来、地域の文化の受け継ぎ者という面からもその意義は大変大きいと思います。県下でも特色あるクラブとして活動が目立っています。東町歌舞伎舞台における上演のあゆみは次のとおりです。また、平成26年には長野県県民文化会館での出演機会を頂き、大舞台での上演体験もさせて頂きました。

平成	令和
10年 「白浪五人男」	23年 「忠臣蔵」
11年 「勸進帳」	24年 「義経千本桜」
12年 「忠臣蔵」	25年 「土蜘蛛退治」
13年 「土蜘蛛退治」	26年 「白浪五人男」
14年 「先代萩」	27年 「勸進帳」
15年 「義経千本桜」	28年 「忠臣蔵」
16年 「勸進帳」	29年 「義経千本桜」
17年 「白浪五人男」	30年 「土蜘蛛退治」
18年 「忠臣蔵」	31年 「白浪五人男」
19年 「義経千本桜」	〔令和〕
20年 「土蜘蛛退治」	2年〜4年 休演
21年 「勸進帳」	
22年 「白浪五人男」	

お問い合わせ：祢津東町歌舞伎保存会事務局(金井)携帯090-4758-6269  
〒389-0506 長野県東御市祢津1822 TEL/FAX 0268-62-3789



皆様こんにちは。四年振りに「林津東町歌舞伎公演」を開幕することになりました。ごゆっくりとご観賞ください。

※ 新型コロナウイルスの影響で、日本国中、各種イベント自粛要請に従って中止・延期等で耐え忍んだこの三年間は非常に長いトンネルでした。今年二月以降、全国的に感染者数も減少傾向となり、先々に明かりが見えてきました。恒例の定期公演開催日が約二カ月後と迫りました二月中旬に、総会を開催しまして、取り巻く状況を勘案し、本年4月29日の歌舞伎公演を開催することに決定いたしました。急な開催決定となりましたが、ご支援・ご協力を頂きました市当局をはじめ関係各位に心より厚く感謝と御礼を申し上げます。この度の公演は令和の時代になって初めての公演となります。

※ この先も私も東町区民一同、新たな時代に向かって、先人たちの残した郷土の宝である貴重な伝統文化の継承発展に努めて参る所存であります。今後ともより一層のご支援・ご協力を賜りますようお願い申し上げます。八重桜に加えて新緑が映える野天の  
林津東町区長 中野 稔  
林津東町歌舞伎保存会長 金井 勝  
観覧席でごゆっくりと鑑賞下さいますようお願い申し上げます。

# 三番叟 百瀬善之

## 林津小学校子ども歌舞伎クラブ 義経千本桜

(クラブ顧問より)

林津小学校歌舞伎クラブは、地元に残る東町歌舞伎に触れてみたい、継承したいという願いのもとに発足し、東町歌舞伎保存会の皆様、保護者の皆様のご支援をいただきながら、今日まで活動を続けて参りました。今年度は、十七名のメンバーが集まりました。そのメンバーで行う演目は「義経千本桜」です。それでは、クラブ長より、あらすじを紹介いたします。



(あらすじ)

【第一幕―渡海屋】  
壇ノ浦の戦いで滅んだと思われていた平家一族。実は、安徳天皇が生き残つ

【配役】

- 渡海屋 銀平 (平知盛) ..... 山下 咲葉 (中二)
- 娘のお安 (安徳帝) ..... 真田 紗羽 (中二)
- 銀平の女房 (典侍局) ..... 齊藤 愛結 (中二)
- 女中1 ..... 柳沢 彩音 (小五)
- 女中2 ..... 塚原 明香里 (小五)
- 女中 ..... 桜井 美陽 (小五)
- 腰元1 ..... 伊藤 旭希 (小五)
- 腰元2 ..... 齊藤 楓 (小六)
- 相模五郎 ..... 石原 蕾 (中二)
- 入江丹造 ..... 土屋 佑希 (中二)
- 番卒 ..... 岡崎 権 (小五)
- 兵士1 ..... 横山 太一 (小五)
- 兵士2 ..... 塩川 玲生 (小五)
- 山下 咲葉 (中二)
- 真田 紗羽 (中二)
- 齊藤 愛結 (中二)
- 柳沢 彩音 (小五)
- 塚原 明香里 (小五)
- 桜井 美陽 (小五)
- 伊藤 旭希 (小五)
- 齊藤 楓 (小六)
- 神津 明裕子 (中二)
- 佐野 綾那 (小五)
- 北澤 璃海 (小六)
- 白石 愛実 (小六)

### 林津東町歌舞伎保存会

## 一谷嫩軍記三段目

熊谷陣屋の場

(あらすじ)

熊谷次郎直実は一の谷の合戦で平敦盛を討ち取り、陣屋に戻ってきます。陣屋には、初陣の息子・小次郎を心配した妻の相模と、討たれた平敦盛の母・藤の方も訪れていました。直実は二人に敦盛討死の様子を語ります。すると敦盛の死を知った藤の方が熊谷に斬りかかってきました。熊谷は敦盛の潔い最期の様子を詳しく語って聞かせます。

敦盛の首を源氏の大将・源義経に見せようとしたところへ突然、義経本人が首の検分に現れます。直実は首を差し出しますが、その首は何と直実の息子・

ており、名うての武将 平 知盛に守られながら摂津の国の大物浦に静かに身を潜めていました。

平 知盛は、船宿渡海屋銀平に姿を変え、平家の敵 源 義経を討つことを夢見ていました。そんな時、運良く、九州へ落ち延びようとする義経一行が渡海屋に宿泊することになりました。一筋縄では義経を討てないことを知っている知盛は、自分の家来を暴れさせ、自分が成敗することで義経を油断させる計画をたてます。果たしてこの企みが成功するのでしょうか。

【第二幕―大物浦】

義経一行をうまくだませたと思っていた知盛でしたが、実はその正体はばれており、大物浦の船上の戦いで義経一行に破れてしまいました。

海岸では、安徳天皇たちが戦いの成り行きを心配しています。傷付きながらも義経に最後の一太刀をあげせようとする知盛。しかし、力尽き自らの命を絶とうと覚悟を決めていきます。碇とともに海に消えていく知盛の最後をお見逃ししないように。

それでは、義経千本桜第二幕「大物浦」の始まり、始まり〜い。

小次郎の首でした。直実は敦盛を救うため、同じ年齢の我が子を身代わりにしたのです。直実は悲しみをこらえ、驚き取り乱す相模と藤の方を「一枝(一子)を伐らば一指(一子)を斬るべし」と書かれた義経の制札で制します。

このすり替えを聞いた梶原景隆は鎌倉の源頼朝へ注進しようと現れますが、石屋の弥陀六の投げた石のみで絶命します。義経は弥陀六を伏見の里で幼い自分を助けてくれた平家の侍・弥平兵衛宗清と見破り、鎧櫃を与えて旧恩に報います。その櫃の中には敦盛が忍び、平家の再興が託されるのでした。

一方、子を失い、もはや、何の望みも無くなった熊谷は、無常を悟り、出家を願ひ出ます。

「十六年は一昔、夢だ夢だ」とつぶやきつつ、出陣の太鼓が鳴り響く戦場を離れ、小次郎の菩提を弔うため旅立って行くのでした。

【配役】

- 熊谷次郎直実：丸山 等
- 弥陀六 (弥平兵衛宗清)：柳沢 俊幸
- 源義経：岩井 純
- 堤の軍次：米澤 暢夫
- 梶原平次景高：柳沢 武彦
- 熊谷の妻相模：小林 常夫
- 経盛御台藤の方松村：悠輔
- 四天王：倉嶋 隆光
- 四天王：坂口 永一
- 義太夫：坂口 文則
- 三味線：鶴澤 弥吉
- 義太夫指導：鶴澤 蟻鏡
- 振付指導：益子 輝之
- 指導・協力：市川鏡十郎社中
- 後見・裏方：林津東町歌舞伎保存会

